

令和3年第4回（12月）山陽小野田市議会定例会

請 願 文 書 表

受 理 番 号	受 理 年 月 日	件 名	請願の主旨	請願者の住所及び氏名	紹介議員の氏名	付託委員会
第2号	令和3年 11月18日	議会が「議員として最低限度の自覚」を持つための取り組みを求める請願	別添請願書 写しのとおり	山陽小野田市小野田 3929 C-202 樋口 晋也	森山 喜久	議 会 運 営 委 員 会

2021年11月18日

山陽小野田市議会
議長 高松 秀樹 様

山陽小野田市小野田 3929 C-202

樋口 晋也

紹介議員 森山 喜久

請 願 書

請願内容

議会が「議員として最低限度の自覚」を持つための取り組みを求める請願

請願主旨

市議会議員選挙において新しい議会の顔ぶれが揃い 10 月の臨時議会において議長選挙が行われ新しい議長が就任しました。その結果を見てみると、22名の議員による投票で無効票が3票ありました。

この無効票とは一体どういう意味があるのでしょうか。この3票を投じた3人の議員は市民の支持を得て議会に出てきた自覚があるとは思えません。

この3人は、もしも「議事を任せることのできる人材がない」からと自らが名乗りを上げることもせずに無効票を投じたとすれば無責任極まりない行為で、この議会の存在を否定するものであり看過できません。

しかしながら選挙で選んだ責任は市民にあります。その市民の責任を議会として放置せず、議会が私たち市民意識の底上げをいかにして行うか、また議員の資質をいかに育てるか、その取り組みは議会改革の本旨ではないかと考えています。

議会は教育機関ではありませんし、議員教育とは本来あるべきことではありませんが、今回のような「稚拙な行動をとる議員が存在する」山陽小野田市議会である現実を議会は真摯に受け止める必要性を感じます。

つきましては、この度の事例を一つの契機として議員意識の底上げのための取り組みを行っていただきますよう請願いたします。

以上

